



15 March, 2025 1

「自分で食事がしたい」

当たり前にできていた「食事」
ある日、突然できなくなる

20代 男性(大学生)
幼い頃に交通事故により頸髄損傷
常に介助が必要な体に

「自分で食事がしたい」



3

対象者と食事介助



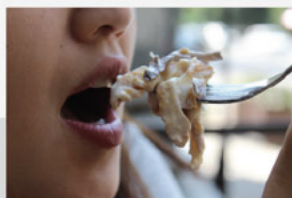
頸髄損傷 (C3,C4)

上肢の自由が失われる



その他の対象疾患

先天性多発性関節拘縮 (AMC)
脳性麻痺
筋ジストロフィー
多発性硬化症
両上肢欠損



食事は家族や
ヘルパーによる全介助

食事時間は必ず付きっきりで
介助者に食べ物を要求する

4

問題

01



食べたいタイミングで
食べたいものを食べられない



指示をすることへのストレス

02



1人の時も食べたい



家族や介助者がいない時間は
食べることができない

03



介助時間



1回の食事：30~60分
毎日90分から180分を食事介助に要する

この問題が一生つきまとう

5

既存のソリューション — 食事介助ロボット —



高額 50万~120万円
食べこぼし



<https://www.meatmepartners.com/index.htm>

7

提案ソリューション - Meal for You -



食事者

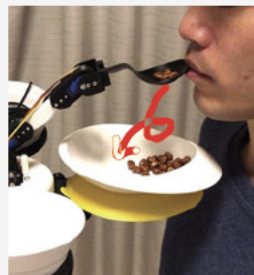
3食・間食を気兼ねなく楽しめる

介助者

介助時間の削減

8

提案ソリューションの特長



低価格と利便性の両立

食べこぼしで周囲を汚さない

多様な設置環境への対応

9

プロトタイプに対するご意見

良い点



間食など、決まった時間の食事でない、介助の依頼を遠慮しがちな場面で役立ちそう。

家族介助の方にとって、家族と同時に食事を楽しめるのは嬉しいと思う。

改善を期待する点



食卓に近づけない環境でも使えるようにしてほしい

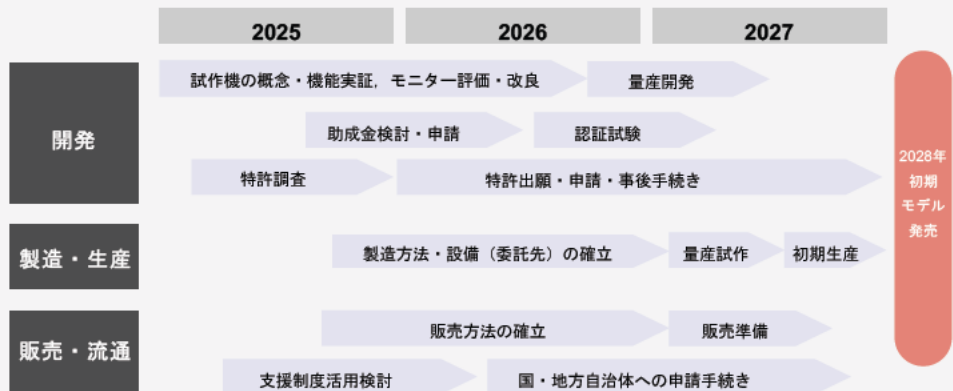
⇒ 改善案：アーム式台座

簡単に、直感的に操作できるような操作装置に期待

⇒ 改善案：音声操作



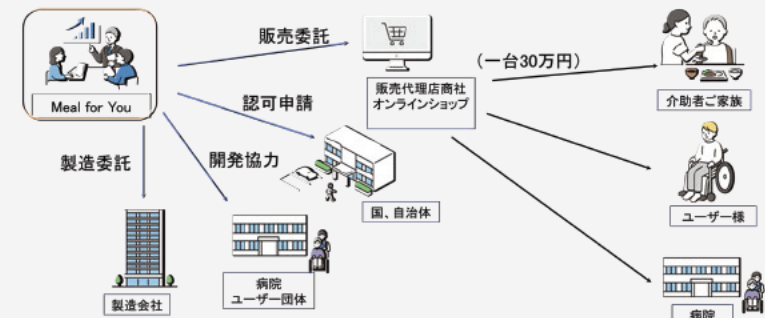
開発ロードマップ ～3年後の上市に向けて～



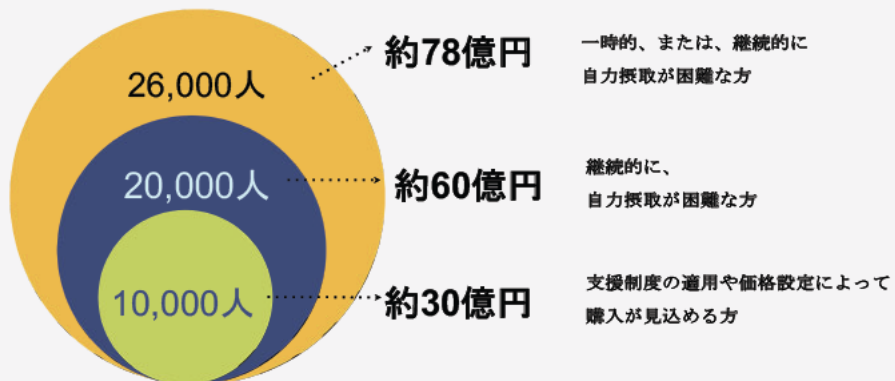
1
0

運営体制とビジネスモデル

国の支給制度を活用し、開発・普及を目指します。



市場規模



※ 単価30万円で算出（食事支援福祉機器助成事業を利用すると1割負担で購入可能）

1
2

Our Team



Shota Emi
Physical Therapist



Hirofumi Itagaki
Hardware Engineer



Yoko Komori
Software Engineer

1
4




Meal for You

どう食べるか=どう生きる

「すべての人が自分^が食事を楽しめる未来」

15 March, 2025

2

Thank you



Meal for You



Meal for You
食事を自由に

1
5